

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2026 年 6 月 1 日 発行
(通巻 509 号) 定価 100 円

現代座レポート No. 106

- ・「出航」公演 無事終了しました (1)
- ・「出航」公演 熊倉正博 (2)
- ・「出航」に参加して 野田詩・山田清崇 (3)
- ・NPO 現代座 総会報告 活動計算書 (4~5)
- ・「誰でもできる朗読教室」 長谷川葉月 (6)
- ・トピックス「60 周年パンフ」「希望への旅」 (7)
- ・お知らせ・会館日誌・会員入会・継続・寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987



カーテンコールでは、昨年よりたくさんの大漁旗と「寶龍丸」の大漁旗も飾られました

「出航」公演 無事終了しました

2026 年 5 月 1 日 (金) から 6 日 (水・祝) まで、現代座ホールで、木村快作・八木澤賢演出の「出航」を公演しました。

1980 年代の函館を舞台に、いったんは漁の仕事に見切りをつけた漁師たちが「自分は海でしか生きられない」と腹を固めて、仲間といっしょに出航していく物語です。

昨年 2 月に 35 年ぶりに公演しました。大好評でしたし、満席で見られなかった方も多く、是非再演してほしいという声がたくさん寄せられ、再演することにしたのです。

予約を始める前、新しいお客様だけでなく、昨年見てくださった方も「また見たい」と申し込んでくださいました。その結果、今年も初日を迎える前に全公演が満席になりました。申し込みがなかった方、お電話いただいたけど予約をお受けできなかった方、本当に申しわけありませんでした。

今回は再演という事もあり、昨年よりもっと深いものを創ろうと、ていねいな稽古を積み重ねました。俳優たちはそれぞれ新しい発見をし、互いの関係を見つめ直しました。今回から参加してくれたメンバーの刺激もあって、新しい「出航」を生み出すことができました。

公演中、俳優の体調不良等のアクシデントはありませんでしたが、6 ステージを何とか無事に終えることができました。ありがとうございました。

公演後のカーテンコールでお客様から沸き起こる拍手子にこえながら、同じ時間を生きた一休感を共有する事ができたのは本当にうれしいことでした。

公演後は、ホールで出演者との交流が出来るようにしました。舞台上がっていっしょに写真を撮ったり、客席でおしゃべりしたり、楽しい時間を過ごすことができました。

アンケートやメールでも、多くの方から励ましのお言葉をいただきました。

本当にありがとうございました。皆さんの応援を胸に、次のステップに進んで行きたいと思えます。

次回のステップに進んで行きたいと思えます。

「出航」公演

昨年2月「出航」公演が終わってから、すぐ再演の準備を始めました。できるだけ出演者のスケジュールを合わせられる時期をさがして、同じ出演者で再演したいと思ったのです。しかし最高齢の今村さんは85才を超える上に、松本に住んでいるのですから、稽古に来るのも、公演中劇団に泊まり込むのも大変な事です。「船頭」の役は何とか新しい人を見つけようということになりました。そして山田清崇さんが引き受けてくださいました。

ところが3月に照明の渋谷博史さんが、水の事故で突然亡くなりました。照明仕込み図やプランは残してくれているので、妻の木村康恵さんが久しぶりにオペレーターを務める事で、再演を望んでいた渋谷さんの気持ちを生かすことにしました。

そして秋、老船長役の黒澤義之さんに臍臓ガンが見つかり、1月に逝ってしまったのです。老船長の沖揚げの歌声は、この芝居の要です。結局熊倉正博さんをお願いして引き受けていただきました。熊倉さんは初演の「出航」で漁師役を務めた元劇団員です。しかし40年近い月日が流れ、15年前に現代座から独立して人形劇の劇団を運営してきたので、芝居の舞台に立つのは久しぶりです。そこで今村さんが「源さん」という元乗組員の役で出演して、いっしょに歌うことになりました。2人は歌の稽古を毎日続け、新しい沖揚げ音頭を創り上げました。

熊倉さんと、船頭役の山田さん、そして船頭の娘早苗役の野田さんに寄稿してもらいました。

大好きなドラマ『出航』

熊倉正博



1980年頃、五反田の「コーヒープラザ希望」という小劇場で、「北の海へ」という8番もある長い歌をみんなまで歌ってました。それが『出航』という演劇台本となって登場して、皆の心をドキドキ、ワクワクさせました。

今回、40年ぶりに『出航』の舞台に立たせてもらって感じたのは、色あせること無くドキドキ、ワクワク感が満載だったということです。

私は、釧路というかつては水揚げ高日本一の町で育ったので、家が漁師という同級生が身近に居ました。北洋に向かう漁船が、北島三郎の曲をでかい音量でスピーカーで流して走っている様子はしょっちゅう見ていました。

40年前に漁師の役を演ずることになり、若かったせいもありますが、どうしても漁師に近づこうとして、焼津港に行つて八戸から来ている鯖漁船に乗せてもらつて漁に行つたり、函館の南茅部町で定置網の漁に連れて行つてもらつたり、知床の羅臼港でスケトウダラの漁に行つたり、多くの経験をさせてもらいました。

今回は、俳優スタッフ含めて30人近いメンバーが一体となって、細かい装置の工夫も手を抜くこと無くやって、照明の木村康恵さんが作る「仕込み飯」を皆で食べて……一つの漁師町のようでした。

焼津まぐろ漁業株式会社の社長さんが観に来てくださつて、「漁業の世界を表現するのには、漁師だけ

では無く、家族・恋人・OB・友人など残された人々を表現することがとても大事です」……と、その点ではよく調べられて表現されていると絶賛でした。

家族や、恋人や、友人や、OBに送られて漁師たちが船出していく最後の場面では、喜びと共に何故か不思議な涙が出ます。



4場 解散式 老船長と元乗組員の源さんの音頭で「沖揚げ」を唄い踊る漁師たち。みんなで力を合わせた漁への思いが湧き上がってくる。

「出航」に参加して

野田詩



「出航」の再演を無事に終えた今、私の心の中には、言葉では言い表せないような温かな感情が広がっています。

昨年、初めて現代座さんの公演に参加させていただいた際、これこそが『舞台』なのだと感じる光景を目の当たりにし、大きな感動を覚えました。舞台上と客席が一体となって作品が生まれていくとは、こういうことなのだと思えたのを覚えています。

現代座ホールの舞台上からは、お客様おひとりおひとりのお顔がよく見えます。カーテンコールで歌っている時に見えたのは、笑顔の方、涙を流していらつしやる方、一緒に歌ってくださいる方、手拍子を送ってくださいる方——その姿は本当にさまざまでした。けれどその空間には、キャスト、スタッフ、そしてお客様皆様と共に「出航」という作品を味わい、作り上げたあたたかな空気が流れていたように思います。多くの方に愛されている作品なのだと感じるとともに、その作品に関わることができたことを心から嬉しく思いました。

また、今回は再演ということもあり、それぞれの役がさらに深まり、作品全体の厚みも増していたように感じます。振り返ると、前回の私は辰との波止場のシーンに精一杯でした。今回はその場面を大切に

にしながらも、作品全体の中で早苗としてどう生きるのか、他の人物たちとどう関わるのかを考えながら舞台上立つことができたように思います。

その結果、解散式のシーンでは、船頭である父や、仕事について語り合った辰だけでなく、その場にいらる人々それぞれの想いを感じ、自然と涙が溢れました。

『早苗』としてこの「出航」に参加できたこと、そして「出航」に関わる『仲間』の一人になれたことは、役者としても、一人の人間としても、かけがえのない経験になりました。

「出航」に関わってくださいましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。本当に幸せな時間をありがとうございました。

舞台「出航」に出演させていただいて

山田清崇



今回、初めて現代座さんの舞台「出航」に出演させていただきました。

昨年の「出航」の後に、出演した舞台「ブレイクスルー」

の稽古場として現代座さんをお借りしたご縁があり、その舞台を観てくださいました関係者の皆様から声がけをいただきました。出演した舞台を観てオフアワーをいただけるのは、俳優として本当に嬉しいことです。

二つ返事でお引き受けし、昨年の「出航」のDVDを拝見しましたが、観終わった後の率直な感想は「なぜ僕にオフアワーしたんだろう？」でした(笑)。

今回僕が演じたのは、漁船をまとめる「船頭」という役。昨年この役を演じられた今村純二さんは、落ち着いた佇まいと威厳に満ちた存在感で、まさに『船の頭』そのものでした。その姿を見て、自分とのギャップに悩み、「今村さんの船頭に近づけるだろうか」と考え続けました。

ですが悩んだ末にたどり着いたのは、「今村さんに近づく」のではなく、「山田清崇としてこの役をどう演じるか」という答えでした。

年明けの顔合わせや稽古を通して、荒くれの船員のように怖そうに見えた共演者の皆さんがとても気さくで温かい方ばかりだと知り、緊張していた私も自然と馴染むことができました。冗談を交えながら迎えてくださったあの空気には本当に救われました。そのおかげもあり「山田清崇なりの船頭」を演じられるようになったと思います。

本番ではさまざまな苦難もありましたが、それを乗り越えながら進む日々は、まるで「現代座」という一隻の船に乗った船員のような、不思議な一体感がありました。

「出航」をご覧いただいた皆様にも、仕事や日々の生活の中で、支えてくれる仲間や家族がいらつしやると思います。この作品を通して、そんな大切な人の顔を思い浮かべていただけたなら、とても嬉しく思います。

NPO現代座 総会報告

特定非営利活動法人NPO現代座の第25回定期総会が、4月18日(土)午後5時半から現代座2階会議室で行われました。

2025年度の活動報告と財政報告が確認されました。

◆財政報告

左の活動計算書は東京都に提出したものです。

2025年度も会員の皆さんからの会費と寄付で支えていただきました。会費は1,065,000円、ご寄付は571,233円いただきました。本当にありがとうございました。

◆創造活動

現代座は3月から年度が始まります。2025年度は「出航」公演が2月に終了し、26年5月の再演に向けての準備が始まる前までの時期でした。そのため公演を企画するのは難しく、かつて上演した芝居のビデオ上映会をすることにしました。6月28日(土)29日(日)の2日間、地下のホールで「星と波と風と」を上映しました。これは1988年から91年にかけて公演した生演奏のミュージカルです。ミクロナシアの島に旅行に行った若者たちが、思いがけず自分の国の戦争の歴史をはじめ知り、本当の国際化とは何かを考え始めるお話です。古い映像でしたが、ホールの大

画面で鑑賞し、様々な感想を語り合う楽しい集いになりました。

そして12月には「武蔵野の歌が聞こえる」を新しい4人のメンバーで3階小ホールで公演しました。

「武蔵野の歌が聞こえる」は地元の歴史を題材にしています。気楽にどこにでも出かけて行ける形を創って、地域の人々や子供たちに見てもらえるようにしたいと考えたのです。さっそく小金井市本町2丁目町会「秋の交流会」として取り上げていただきました。これから小中学校での公演もやっていけたらと思っています。

◆地域劇場づくり支援事業

これは現代座会館を地域の活動や、創造集団の稽古や公演に使っていただく貸し会場の事です。2025年度は地下ホールを使つての稽古が10団体、公演が7団体ありました。3階小ホール使用は稽古や練習が3団体、公演が4団体でした。特徴的なのは、地下ホールを稽古で使う団体のうち6団体が年間2回〜3回の稽古で使用したことです。

地域との繋がりととして大切にしているのは地元の「緑町第2町会」です。役員会や総会だけでなく、今年度は「防犯講座」も2階の会議室を使ってもらいました。また、誰でも参加出来る「緑町ふれあいサロン」も町会の役員さんを中心に毎月開いています。

◆セミナー事業

・「誰でもできる朗読教室」は半年間の講座で最後

は舞台で発表会をします。2025年は4月期が28人、11月期が27人の受講生で、水曜と木曜の昼夜4つの講座はほとんど定員いっぱいでした。何年も継続して受講する人が多いのが特徴です。

・小金井の公民館貫井北分館の高齢者学級「はなみずき学級」で、昨年に引き続き「演劇体験」を行いました。30人の高齢者学級の受講生に現代座ホールに来ていただいて、台本を持って舞台上でセリフをしゃべるといふ体験をしていただきました。「楽しかった」と言っていたら、2026年度もやることになりました。

・しばらくやれないでいた「遠い空の下の故郷〜ハルセン病療養所に生きて」の語り活動を再開しました。7月に東京学芸大学の環境教育の授業の中で、小学校教員養成課程で学ぶ学生さんたちに聞いていただきました。そして12月には港区の大本山永平寺別院・長谷寺(ちようこくじ)で、修行僧の人権学習会として呼んでいただきました。これからも何人でも集まってくだされば、出かけて行きたいと思えます。

◆現代座ホールの整備

毎年、会館の修理や機材や備品に100万から200万円の予算をみています。2025年度は、ずっと困っていたホールと3Fの雨漏りの修理をすることが出来ました。屋上と駐車場の防水塗装です。これからも毎年少しずつ進めていく予定です。

2025年度 活動計算書

2025年3月1日から 2026年2月28日まで

特定非営利活動法人 NPO現代座

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		1,065,000
2 受取寄付金		571,233
3 受取助成金等		
公共団体補助金	0	
民間助成金	0	0
4 事業収益		
①地域劇場づくり支援事業収益	5,634,280	
②制作上演事業収益	464,500	
③セミナー事業収益	1,250,000	
④国際協力事業収益	0	
⑤まちづくり事業収益	0	
⑥子ども健全育成事業収益	0	
⑦会報発行事業収益	0	7,348,780
5 その他収益		
受取利息	6,570	
雑収益	119,569	126,139
経常収益 計		9,111,152
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料報酬	2,031,700	
(2) その他経費		
制作・準備費	0	
創造・上演費	436,565	
交通・通信費	82,036	
資料・印刷費	34,192	
消耗品・修繕費	2,390,171	
会報・HP経費	313,836	
その他経費 計	3,256,800	
事業費 計		5,288,500
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	336,400	
(2) その他経費		
通信運搬費	545,879	
消耗品費	290,709	
雑費	502,577	
光熱水道費	1,336,411	
租税公課	940,300	
減価償却	153,884	
その他経費 計	3,769,760	
管理費 計		4,106,160
経常費用 計		9,394,660
当期正味財産増減額		-283,508
前期繰越正味財産額		37,085,538
次期繰越正味財産額		36,802,030

当期において、その他事業は実施していません。

「誰でもできる朗読教室」の活動

長谷川葉月



↑4/8(水) 出演「2025年11月期 水曜教室」

(後列左より) 石川秀樹、環笑子、勝木ルミ子、田中佑美、尾花はるみ、光野均、本田典子
(前列左より) 八幡茂子、木谷道宣、長谷川葉月(講師)、江花幸子、坂梨智恵子

4月8日(水)と9日(木)の2日間にわたって、昨年11月から半年間の講座を受講した23人が朗読を発表しました。発表会は今回で18回目になります。1回目は10年前の2016年3月でした。初回から継続して学び続けている方もいますし、今回初参加の方も2名いました。ですが、とにかく、だれもがこの日のために真剣に朗読に取り組んで、ワクワクドキドキしながら、



↑4/9(木) 出演「2025年11月期 木曜教室」

(後列左より) 本橋一夫、野崎幸代、小野寺優子、早乙女裕子、古明地節子、穴戸知美
(前列左より) 浜崎小枝子、五味孝宏、長谷川葉月(講師)、野本ゆうこ、今井治江

から、発表会の舞台に立ちました。思えば、2015年10月に朗読教室を開講した時は、まだ1クラスのみで受講者も9人でした。それが10年の間に4クラスになって、人数もだいぶ増えました。2020年のコロナ禍の時も、休むことなく(2ヶ月間開講を延期しましたが)朗読教室を続けていけたのは、「喋る機会がなくなって、このままだと声が出なくなっちゃう」、「家にこもってばかりいると気持ちが悪く沈んでしまう」、というみなさんの要望があったからで、まず、声を出すことが体にとって大変健やかな活動であることに気づかされました。

こうして朗読を楽しむ方が増えたことは大変嬉しいことです。

講座では、最初の4ヶ月間は私が選んだ課題テキストを分け読みします。近代文学好きの私は、つい、明治・大正・昭和初期の名作を多く取り上げてしまいます。「なんで、こんな難しい文体の小説ばかりを読ませるんですか」と言われたりするのですが、難しい作品をクラスの仲間と一緒に読みこなして、作品背景について考察したり、時には解釈を話し合ったり、新しい発見をするうちに朗読の力がついていくのです。

発表会では、自分の読みたい作品を5分〜10分以内で発表してもらいます。どんなにたくさん練習しても、人前で読むのは、やはり緊張するものですが、みなさん一生懸命練習した甲斐があつて素晴らしい完成度で、照明の中で読む姿は堂々としたものでした。発表作品に取り組み期間はたったの2ヶ月間。しかし、練習のたびに見違えるように変わっていくので、この期間は私にとっては楽しいひとときです。

作品はバラエティに富んでいて、小泉八雲、夢野久作、芥川龍之介、梶井基次郎、井上靖、幸田文、太宰治など近代文学の作家から、向田邦子、遠藤周作、赤川次郎、梨木香歩、辻仁成、角田光代、江國香織など現代の作家の作品も多くあり、鈴木俊貴の科学エッセイ、松谷みよ子の昔話や海外作家の作品などもありました。

何より驚いたのは、受講生たちのチャレンジ精神。

「失敗してもいい、思いついたアイデアをとにかくやってみよう!」という度胸の良さでした。そうやって会場のお客様を巻き込むエネルギーでこれからも元気に声を出して、朗読を楽しく続けていってほしいです。

トピックス・お知らせ

TEL 042-381-5165

FAX 042-381-6987

統一劇場×現代座

60年のあゆみ
パンフレットをさしあげます

「出航」は創立60年の年に公演されました。この機会に「創立60周年パンフレット」を創ろうということになりました。編集委員会を作り、歴史をまとめたり、公演した芝居のポスターやチラシを探してデータ化したりという作業を進めました。

そして「出航」公演のパンフレットと一体化して、お客様全員にお配りすることが出来ました。公演に來られなかった会員さんには、このレポートと一緒に郵送します。

1965年の創立からの主な出来事と公演回数、芝居のチラシと簡単な説明、いくつかの舞台写真が載っています。

会員でなくても、欲しい方にはお送りしますので、ご連絡下さい。



木村快 著

「希望への旅」ある自己形成の記録

増補改訂版 出版しました

木村快は1936年に植民地だった朝鮮の大邱で生まれました。1944年、戦争の終わる前の年に父は出征、1945年に硫黄島で戦死しました。残された母は、5人の子どもを抱え、手に持てるだけの荷物を持って引き揚げて来ました。長男だった快は、広島の子供のもとに引き取られ、焼け野原の広島で育ちました。

激動の少年時代から、人生を変えた人との出会い。定時制高校への進学。「新制作座」に入団して体験した旅公演。新制作座からの首切りと「争議団」の結成。そして「統一劇場」の創立。

「頼まれたら断れないだけだよ」と言いながら、責任者として全てを背負ってきた木村快の人生の軌跡を、「同時代社」という出版社を立ち上げた川上徹さんが、1980年に「希望への旅」という本にしました。

それから40年以上が過ぎました。戦後80年を契機に、戦争中の記憶を持つ者も少なくなる中で、戦時中の体験を知りたいという人が訪ねて来た時、その体験を本にしていたことを思い出しました。しかし、「希望への旅」はもう現代座にも在庫がほとんど無くなっていました。戦争の歴史だけでなく、「統一劇場」から「現代座」への歩みはどうして生まれ来たのか、その根底にある物は何なのか、それを見つめ直すためにも、この本を再販出来ないか

と思いました。

今「同時代社」を引き継いでいる川上隆さんに相談しました。そして再販が決まったのです。

初版の「希望への旅」は統一劇場を創立し、困難な中、木村快が「希望」という芝居を生み出す所で終わっています。その後の事も是非書き加えて欲しいという川上氏の助言を受けて、1982年の「ふるさとときらばん」と「希望舞台」の独立までの経過を書いた「新しい出発」の章を書き加えました。そして、創立60年が経ち、「出航」公演を迎えた思いを「あとがき」にしました。

本は「出航」公演の会場で多くの方に買っていました。ありがとうございます。

書店やアマゾン等でも買うことが出来ます。興味のある方は是非読んでみてください。

現代座では割引して1800円(税込)で販売しています。まとめて購入したい方はご連絡ください。



お知らせ

TEL : 042-381-5165
FAX : 042-381-6987

little★銀河 (リトルギンガ)

「双子の星」～チュンセとポウセの空の大冒険～

原作：宮沢賢治 脚色/演出：little★銀河 音楽：阿部明子



2026年 8月30日(日)

開演：①10時30分 ②13時30分

会場：現代座ホール

参加費：高校生以上 3,000円
(小金井市在住の方2,500円)
中学生以下 1,500円
(3才以下お膝の上鑑賞は無料)

申込み：little.ginga@outlook.com

詳細はlittle★銀河HPに

<https://shot2011.wixsite.com/little-ginga>子供達がいろいろな年代の方と一緒に観劇できる機会
となりましたら嬉しいです。

ぜひ、年齢問わず皆様のご参加をお待ちしております。

現代座会館 3月～5月 活動日誌

3月4日 「木村快との雑談会」

15日 「現代座レポート105号」発送作業

25日 木村快大腿骨頸部骨折で入院

28日 現代座会議

4月18日 現代座総会

5月17日 現代座会議

22日 木村快退院

第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】

3月18～22日 「青春の庭のうさぎたち」公演

3月30日～

4月9日 劇団「アルファ」稽古

4月11～30日 現代座「出航」稽古

5月1～6日 現代座「出航」公演

8～17日 「いである」稽古

18～20日 「青年劇場」稽古

22～24日 劇団「アルファ」稽古

【三階小ホール】

3月1日 津田「リトルコンサート」

4月8、9日 朗読教室発表会

5月1～6日 「出航」控室

隔水曜・木曜日 朗読教室

毎火曜・木曜日 ヨガ教室

【二階サロン】

3月20～22日 「青春の庭のうさぎたち」控室

4月11日 緑町第2町会役員会

5月1～6日 「出航」喫茶コーナー

5月16日 緑町第2町会総会

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費 (現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円 (1口以上)
正会員 10,000円

郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座